



高岡  
北  
ロータリークラブ  
TAKAOKA-NORTH  
ROTARY CLUB



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

例会日・毎週月曜日 12:30～13:30  
例会場・ホテルニューオータニ高岡

創立・1980年5月19日  
認証・1980年6月12日  
国内創立順位・1489

会長 新原 俊夫  
幹事 片岡 長司  
会報委員長 荒木 信幸

## 第1838回 例会 2月7日(月)



### ◇点 鐘 新原会長

### ◇国歌斉唱

### ◇ソング “四つのテスト”

### ◇ゲスト並びにビジターの紹介

ゲスト：アレッセ高岡 代表 青木 由香 様

### ◇会長挨拶並びに報告

皆さんこんにちは。この度は多大な心配と迷惑をおかけし、申し訳ありませんでした。先月の27日に高岡厚生センターでPCR検査を受け、陽性と判断されました。家族からの感染ではないかと思われま。症状は全くな、10日間の自宅療養をしておりました。長かったです。毎日、高岡厚生センターから、体温と血中酸素飽和度の確認の電話がありました。自分なりに振り返りますと、緊張感が無かったことと、3回目のワクチン接種がまだだったことが原因かなと思います。私の元には、4～5日前に、市役所から案内が届きました。皆さんも感染しないように、3回目のワクチンを早めに済ませるようにお願いします。

### ◇ロータリー追悼記念週間 =黙とう=

### ◇2月在籍表彰

宮崎外男君(34年) 山辺知代君(10年)

福田宏治君(6年)

### ◇2月結婚記念日祝い

野崎雄次君(1日、17年)

### ◇2月誕生日祝い

松長一雄君(23日) 五十嵐豊君(27日)

金森哲司君(28日) 板坂敏雄君(28日)



### ◇出席報告 出席者 24名 メイクアップ済 0名

名誉会員	会員数	本日の出席率	1/24 例会 修正出席率
1名	35名	82.76 %	92.31 %

※内、Zoom 出席者 2名

### ◇幹事報告

- 1) 次回2月14日(月)例会は、「平和構築と紛争予防月間に因んで」ということで、山辺知代国際奉仕委員長の卓話となります。よろしくお願いたします。
- 2) 2月27日(日)に開催される予定だった富山第4グループ都市連合会ですが、2月3日(木)にホストである小矢部ロータリークラブより中止のご連絡をいただきました。ご予定いただいた会員の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしますが、よろしくお取り計らいいただきますようお願いいたします。
- 3) ロータリー財団の確定申告用領収証は、2月4日(金)に郵送済みです。ご確認ください。
- 4) 回覧：①ガバナー月信 NO.8  
②会報 NO.20  
③2022-23 年度のロータリー手帳の販売案内 1部660円。

### ◇ニコニコBOX報告

新原会長：この度は、多大な心配とご迷惑をおかけしました。申し訳ありませんでした。今後は緊張感を持って続けたいと思います。  
魚住副会長ありがとうございました。  
野尻信晴君：まあ目が覚めたら雪また雪  
早く春よ来い  
会長、夫婦そろって二人で良かったネ。  
【今年度ニコBOX 累計額 265,736円】

### ◇本日のプログラム(担当：副会長)

卓話「活動紹介とアレッセ高岡が目指すもの」  
アレッセ高岡 代表 青木 由香 様

いつも大変お世話になっております。アレッセ高岡の青木です。卓話をさせていただけるとのことで、3回目のワクチン接種は土曜日に済ませてきました。

皆様には活動をサポートしていただき、約5年が経過しました。コロナの影響もあり、最近ではシドニーさんやアイザックさんのような交換留学生のサポートは出来ておりませんが、今日まで関係を深めていけたことは大変嬉しく思っております。本当にありがとうございます。

アレッセ高岡の事業内容ですが、2010年に設立し、任意団体でやってきましたが、昨年の9月にNPO法人化出来ました。ここまでやってこられたのは、クラブの皆様のご理解とご支援のおかげです。ありがとうございます。

設立当初は、対面の学習支援のみを行っておりましたが、必要に迫られて外国人の親御さんに向けて多言語の教育の情報支援やオンラインによる学習支援、特にこのコロナ禍では、オンライン学習支援が重要となっております。昨年度からは、市民性教育事業をスタートさせました。皆様には学習支援事業のご協力と、多言語の数学学習動画を、ご紹介いただいた、高岡向陵高等学校インターアクトクラブさんと作成しています。

アレッセ高岡の活動の背景ですが、日本は地方の少子高齢化が進んでおり、高岡市も例にもれずその傾向があります。児童生徒数の推移を見ますと、子供の数がだんだん減っていく一方、外国人児童生徒数は右肩上がりです。約20年間で2.5倍に増えております。子供だけではなく大人の数も同様なのですが、子供の数が減っている高岡市において外国ルーツの子供たちが増えているのは、人口動態で下り坂にある高岡市を引き留めている存在だと思います。

しかしながらそのような子供たちが富山県民・高岡市民として成長できているかという大きな課題があります。

その課題が如実に表れているのが、進学問題です。外国ルーツの子供たちの高校進学に関しては本当に燦々たるものです。富山県は教育県だと言い、全体の進学率は99%を超える中、外国人の進学を見ると、中学は180人なのに高校に上がると77人と半数以下になります。また、日本語指導が必要な生徒数は中学で95人いるのですが、高校ではたったの1名です。これは、高校入学時に母国へ帰っているわけではなく、高校に進学できていないことや、卒業できていないことを示しております。高校進学は外国ルーツの子供たちの大きな壁で、富山県は「日本語ができるようになってから学校に来てください」というスタンスで、それがこの数字に表れております。

高校への入り口に関して、外国人に限ってではないですが、入国6年以内だと問題にフリガナを振る措置を2012年からやっていますが、この措置もフリガナを振るだけなので、読み方が分かって言葉の意味が分からなければ意味がなく、日本語指導が必要な子供たちを救っているとはいいたいです。この措置の条件はその都市によって全く違います。大きな地域間格差があります。

富山県では、日本語指導が必要な生徒の受け皿は、高岡向陵高校のような一部の私立高校になっております。そうになると、私立高校に通う経済力の有無が、高校進学できるかどうかの条件になってしまいます。実際に私立高校には受験さえさせてもらえない子や受験しても入学金が払えずに資格を失ってしまう子、入学しても授業料を滞納し

てしまい、中退してしまう子がたくさんいます。こういった状況に対して、教育行政機関である富山県の県教委は私立高校ということで、ノータッチの姿勢です。また、私立高校でもある程度の日本語力が入学・編入の要件になっております。ですので、来日して間もない子は日本で行き場がありません。日本全体で、外国ルーツの子供たちの進学はとて厳しいです。富山県は特に厳しいです。例えば、富山県だと進学できないけれども山梨県だと進学可能で、富山県にいるから進学できないという事例もあります。その状況の中で、アレッセ高岡は学習支援事業を続けておりますが、対症療法的な活動を行っており、同じことをずっと繰り返してしまっています。また、子供たちの自己肯定感の低さが課題としてありました。ですが、それは子供たちが地域を担っているという意識が、子供自身にも支援している人にも、地域の人々にも無くて、それを子供たちが敏感に感じ取っていると痛感しています。みんなが変わっていかないと子供たちや地域の未来はないと考えます。

これまでの学習支援事業や情報支援事業を包み込む形で市民性教育事業をスタートさせました。市民性教育とは、ただ単に高岡に住んでいるから高岡市民というのではなく、主体的に社会とかかわることを目指し、実践して、他者とともに生きようとする人のことを市民と定義しています。そういう市民になるために必要な資質を育てる教育と捉えています。

市民性教育は外国ルーツの子供たちだけではなく地域に住むすべての人々を対象としています。最終的には地域の課題解決、地域の活性化、もっと言えば地方創生を狙っています。外国ルーツの青少年を中心としながらも、すべての人々を対象として、市民性教育講座、SDGsフォーラム、フィルムフェスティバルを3本柱で成り立っております。最近ではコロナの影響をとて受けておりますが、オンラインを組み合わせてながら工夫して事業を実施しております。市民性教育講座は月1ペースで企画しております。講座のテーマや軸は①市民性獲得のための基本的資質の寛容、例えば、批判的思考を養うことやリテラシー、多様性を尊重する心構えなどを養うこと、②キャリアデザイン、③社会課題の解決、例えば、防災や産業などです。最近では2月に高岡市国際交流協会との共同で防災ワークショップを開催予定だったのですが、コロナで中止になりました。しかしそれで終了ではなく、新聞紙でスリッパを作るワークショップを実施するつもりでしたが、みんなできないのであれば、その作り方を動画に撮って多言語で発信しようとしております。

活動報告ですが、オンラインでブラジルの数学の先生を講師としてお迎えし、日本とブラジルの算数・数学の違いを教えていただきました。高岡には、たくさんのブラジル人の子供がいるのですが、日本の算数・数学のどこで戸惑うのかを勉強しあいました。

また、水橋出身の映画監督、平井敦士さんをお迎えし、その平井さんが作られたフレネルの光という故郷をテーマにした作品を鑑賞し、映画監督とディスカッションをしながら、自分にとっての故郷って何だろうと考えるワーク

ショップを行いました。これに参加したブラジル人の男子は、自分にとって故郷はブラジルだけではなく富山にもあり、故郷がいくつもあることを誇りに思うというコメントを残してくれました。

キャリアデザインについては、いろいろな背景や立場の人が、自分の今後のライフプランを共有して対等に意見を交わしあうというワークショップも行いました。ブラジルや中国、韓国、パキスタン、アメリカ、日本ルーツの人々、年代も10代から80代までいろいろな方に来ていただいて対等に話し合うことを行いました。まったくお互いに視野や考え方が違うもの同士がディスカッションすることで、改めて自分について気づくことがあったという感想をいただきました。

そのほか青少年を中心に「校則について考える」や「エッセ科学を見抜け」など、批判的思考を養うためのワークショップも行いました。

外国ルーツの子供たちから見ると、日本の学校文化はおかしなところがたくさんあるようで、日本の中高生とも活発なディスカッションができました。

昨年度南砺市で行われた子供の権利条約フォーラムにも参加し、外国ルーツの若者としてパキスタンの子がファシリテーターとなり分科会を担当しました。

社会課題の解決についてですが、先ほどもお話した防災について特にアレッセ高岡では力を入れております。

富山県は47都道府県で最も防災意識が低いワースト県です。高岡消防署にも協力をしていただき、訓練を行ったり、福岡県で多文化共生と防災をテーマに、先進的な活動をされている方を講師に迎え、オンラインで勉強会を行ったりしました。実際地震や大雪もそうですが、緊急事態の際には、あなたは外国人だからとか関係ないですよ。お互いに助け合う土壌を築いていけたらと思っています。

昨年度末に市民性教育プログラムの一つとして、SDGsフォーラムも実施しました。オンラインと対面を組み合わせで行いましたが、コロナの影響で主にオンラインで実施しました。子供たちのSDGsに関する動画を募り、それをコンテストして、大学生が企画したSDGsに関するワークショップを行いました。県内のたくさんの小中高校生が参加し、大賞は高岡西高校の「ジェンダーと制服に関する発表」でした。外国ルーツの子たちも大賞は取れなかったのですが、チームを組んで課題に取り組み、発表しました。

高岡向陵高校インターアクトクラブ(国際部)とタッグを組んで行っている多言語での中学数学を学ぶ動画を作るプロジェクトの様子です。現在はYouTubeで正の数・負の数という動画を英語・中国語・ポルトガル語・易しい日本語で公開しています。今も新しい動画配信に向けて頑張っております。

継続して行っている学習支援ですが、対面とオンラインで行っております。コロナの影響で始めたオンライン支援ですが、富山県は一つの団地で集まっておらず、あちらこちらに散在している地域で、外国人散在地区と言います。

オンラインというツールは外国人散在地区で支援を届けるのに大きな武器となっています。

いろいろな事業や活動を広げてきたことで、元々やっていた学習支援活動にも変化が生まれてきています。

毎週いろいろなテーマでコメントを共有しあったり、以前行われた高岡市長選を模して選挙を行ったりしています。フードロス対策として、コストコで賞味期限間近のパンをたくさんもらってきて皆さんにお配りしたりなど行いました。

学習支援そのものについても、どのように子供たちの自立的な学習を促すかを考え、記録の工夫を重ねております。

アレッセ高岡設立から、どちらかという今まで支援する側される側という、一方的な関係性の下で活動を続けてきてしまいました。しかし、昨年度から市民性教育事業を始め舵を大きく切ったと思っています。アレッセ高岡という組織も将来的には外国人ルーツの青少年が主体となって運営し、地域のリーダーとして地域の課題解決に取り組むことが理想です。学習支援も市民性教育もNPO法人化もそのための種まきをしているととらえております。

アレッセ高岡の課題ですが、今直面しているのは、大きく3つあります。

まずは外国人散在地区としての課題ですが、あちらこちらに存在している支援が必要な子供たちにどのようにアプローチしていけばいいのかということです。一か所に集まっていれば、そこにアプローチすればいいのですが、どこにだれがいるのかわからない状況でどう支援するかが大きな課題です。子供にリーチできたとしても日本の学習の壁があまりにも高いので、時間的にも人的にも少ないリソースでどう乗り越えていくのか試行錯誤しています。

2つ目は市民性教育の話で、外国ルーツの青少年ではなくまわりが変わっていくべきということもお話させていただきましたが、アレッセ高岡のチャレンジをどのように多くの方々に共感していただき、社会的なムーブメントを起こせばいいのかが大きな課題です。広報のノウハウやネットワークも弱いので、今後どうやって味方を増やすかが課題となっております。

最後はアレッセ高岡自身の組織基盤の弱さです。お陰様で9月にNPO法人化は出来ましたが、恒常的なマンパワー不足があり、スタッフも疲弊しています。最終的には外国ルーツの青少年を中心に運営していきたいと考えていますが、彼らの多くは日本の高校・専門学校を卒業しても不安定な雇用で働いている現状です。本当の意味でアレッセ高岡の活動を行うには、彼らを雇用するのが良いのですが、非営利ということで、なかなか難しいです。

いろいろ課題も申し上げましたが、アレッセ高岡が事業を通して目指すものは、様々な違いを超えてここ高岡でしか作れない私たちの故郷というのを、多様な私たち皆で作り上げていくことです。

高岡北ロータリークラブの皆様と一緒に高岡で暮らす子供たちが「高岡で育ってよかった」「ずっと高岡で暮らしたい」と思えるような教育活動や地域づくりと一緒に進めていければと思っています。

